

YMS NETWORK

アスリートインタビュー ～ フェンシング競技 ^{たかい しゅう}高井 秀 選手 ～

アジア・カデット・フェンシング・チャレンジ 2024

12月26日(日)～29日(水) 香港

YAMAGUCHI ジュニアアスリートアカデミー12期生の高井秀選手(平田中3年)が7月に行われた全国中学生フェンシング選手権大会で3位となり、日本フェンシング協会からの推薦を受けて、小中学生の日本代表として年末に香港での合宿と大会に参加しました。

今回が初めての海外遠征だった高井選手。国際大会を終えて、感じたことや今の思いを伺いました。



—— 初めての国際大会を終えて、今の率直な感想を教えてください。

高井 最初は、まさか自分が選ばれて、日本の代表として海外に行くなんて思っていなくて、正直、全然実感はありませんでした。もっと大人になってからそういう立場になるのかなと思っていたので。

実際行ってみて、海外選手と言葉の壁を感じたというのはもちろんあるんですが、それ以上にジェスチャーだったり、フェンシングでのコミュニケーションをとおして、相手の心情だったり、フェンシングに対してどれだけ努力してきたのかが伝わってきて、スポーツは言葉のコミュニケーション以上により重要な意味があるのかなと感じました。大会前に合宿があったんですけど、その時もファイティングの後に、ジェスチャーなどで主にコミュニケーションを取りながら、簡単な英語で「あのプレイ良かったね」って褒めあいました。



—— 今回の大会ではどんな目標を立てていましたか？

高井 日本の大会だとわりと戦える自信はあるんですけど、海外の選手と戦う機会がなくて、正直全然自信がなかったんです。なので、1位になろう！ベスト8に入る！というよりは、1勝でもできればいいなって。とりあえず目の前の人を勝ちにいこうっていう気持ちでやっていました。最終的には14人中14位という結果ではあったんですけど、予選リーグの中で1勝はできたので、その辺は目標クリアなのかなと。



でも合宿の時の練習では、意外と勝てていたんですよ。なので、試合だったら、真ん中くらいはいけるかなって思っていたら、試合ではこけちゃって。練習で勝てた時の感覚があったから、その自信が前に出すぎたというか…。自分に期待しすぎて、試合で負けだした時にメンタルにきたのかなと。うまくいかなかったですね。

—— 国内大会と国際大会で違いはありましたか？

高井 プレースタイルが全く違うなって感じがありました。僕のイメージですけど、日本の選手は細かい動きが多いんですけど、海外の選手は大技というか、大きく力を使ったプレイをしたり、周りが見て「あっ、すごい！」と思わせるような、拍手したくなるようなダイナミックな技を好むような傾向があるのかなと思いました。



アカデミーでの練習の様子 高井選手（右）

—— この大会や合宿で気づいたことや得たものはありますか？世界との差はどんなところにあると思いますか？

高井 自分に過度な期待はやめたほうがいいなということですね。さっきの試合の話じゃないですけど、期待しすぎは良くないなと痛感しました。

世界との差はパワーかな。僕もそうなんですけど、身長があっても筋力がまだまだないので、これから筋力をつけて身体づくりもしていきたいなと思います。

—— 今回の遠征で体調面でもメンタル面でも気を付けていたことはありますか？

高井 とにかく「いつも通りにする」ということを意識していました。遠征前はマスクを付けるくらいで、それ以外は「いつも通り」。寝る時間も食事も「いつも通り」にしていました。いつも通りにしていれば大丈夫かなと思っていたので。現地に行ってから、日本と同じように「いつも通り」を意識していました。初めての海外でご飯も心配してはいたんですけど、問題なく食べられました。「何これ！？」っていうものがありましたけど（笑）。香港のコンビニに行ってソイジョイとかプロテインバーのような補食も自分で買いに行きましたよ。

—— 今回の国際大会での経験を活かして、次の目標を教えてください。

高井 年があけて、カデ（U17）のカテゴリで高校生がごそっと抜けていくので、今までに比べると楽に勝てていけるんじゃないかなと思っています。カデの国内ランキングでベスト3までに入れば、アジア選手権と世界選手権に行けるので、そこを目指して、どの試合も上位を狙っていきたいです。



◀全国中学校フェンシング大会 3 位表彰

—— 高井選手が憧れる選手はいますか？

高井 アカデミーの先輩でもある中本尚志さん（早稲田大 2 年・アカデミー 6 期生）です。もちろん金メダリストの加納虹輝さんも強くて憧れる部分もあるんですけど、あまり関わったことがないので。尚志さんとは練習も試合も何度も一緒にさせてもらっているんです。前に、尚志さんと練習をした時に自分がラッキーで勝っちゃったことがあったんです。手加減をしてくれたんだと思うんですけど。それでその試合の後、尚志さんが一人で座って考えこんでいたんです。その後「もう一回やろう」って声をかけられて、もう一回試合をしたら、5-0 でなす術がなくやられちゃったんですよ。そういうプライドとか考えたことを体現できる再現性とか本当にすごいなって憧れます。



佐賀国スポ表彰式にて中本尚志選手（右）

—— 憧れの中本選手や金メダリストの加納選手を教え子に持つ本間邦彦先生（岩国総合支援学校教諭）の指導を小学生の頃からアカデミーで受けていますが、いかがですか？

高井 本間先生に限らず、他のコーチの方もそうなんですけど、先生方の指導が受けられてありがたいなと思っています。

本間先生は、本当にすごいんですよ。試合でベンチについてくださることがあるんですけど、「こうした方がいい」とか「ここはこうするんだ」ってアドバイスをくれるんです。でも自分は「それは難しくないか？本当にできるの？」って思うんですけど、試合中に勇気出してやってみると絶対に決まるんですよ。今まで間違ったことがないくらい本間先生は指示のレベルが高くて、正確さが違うなって思います。



本間先生の指導を受ける高井選手（右から 3 番目）

全国中学校フェンシング大会の時もベンチについてくださったんですけど、その時、試合が終わった後に、「何やってんだよ！」って厳しく指導があったんです。その試合、僕勝ったんですよ。勝ったんですけど、試合中に僕の悪い癖が出てしまって本間先生の言われたことができてなくて。自分が考えるより先に体が動いちゃったのもあって、負けそうなとこまでいって、何とか盛り返して勝ったんです。今となっては、結果よりその過程をしっかりと見てもらえていたんだなと思います。本当にありがたいです。



全国中学校フェンシング大会 本間先生・菊池コーチと一緒に



身体能力開発プログラムでトレーニングに励む高井選手

—— 最後に、将来の夢を聞かせてください。

高井 オリンピックに出たいです。オリンピックで勝ちたいというよりも、まずはシニアで日本のトップ3に入って、オリンピックに出たいというのが大きな目標です。高校でも大学でもフェンシングを続けていこうと思っています。応援お願いします！

—— フェンシングと並行して身体能力開発プログラムのトレーニングを週1回、受けていますが、トレーニングはフェンシングのプラスになっていますか？

高井 「このトレーニングをしたからフェンシングのこれができたんだ」という直接的な感覚はないんですけど、身体能力のベースが上がっているなと思います。フェンシングで新しい動きをしても、身体能力プログラムでいろんな動きやいろんなスポーツを体験しているおかげで、体の使い方というか、動かし方がわかっているから再現性が上がるのかなって感じます。



アカデミー生と共に練習に励む高井選手（右）